

岡山県感染症週報 2012 年 第 44 週 (10 月 29 日～ 11 月 4 日)

【お知らせ】今週から、週報及び岡山県感染症情報センターホームページに『インフルエンザ情報』の掲載を開始しました。

岡山県は『腸管出血性大腸菌感染症警報』発令中です。

◆2012 年 第 44 週 (10/29～11/4) の感染症発生動向 (届出数)

■全数把握感染症の発生状況

第 41 週	2 類感染症	結核	3 名 (40 代 女 1 名、70 代 男 1 名、80 代 女 1 名)
	5 類感染症	ウイルス性肝炎	1 名 (50 代 女)
第 42 週	2 類感染症	結核	3 名 (30 代 女 1 名、60 代 女 1 名、80 代 女 1 名)
	5 類感染症	梅毒	1 名 (40 代 男)
第 43 週	2 類感染症	結核	3 名 (40 代 女 1 名、50 代 女 1 名、80 代 男 1 名)
	5 類感染症	ウイルス性肝炎	1 名 (10 代 男)

■定点把握感染症の発生状況

○感染性胃腸炎は、患者が増加傾向です。

岡山県では『食中毒 (ノロウイルス) 注意報』注意報を発令し (11 月 8 日)、食中毒予防を呼びかけています。

○インフルエンザは、倉敷市で 1 名の発生がありました。

○RS ウイルス感染症は、前週と同数であり、過去最も多い状態がつづいています。

【第 45 週 速報】

○岡山市の高等学校で、インフルエンザとみられる学級閉鎖がありました。(11 月 6 日)
県内でのインフルエンザとみられる集団発生は今シーズン初めてです。

1. **腸管出血性大腸菌感染症**は、第 44 週は発生がありませんでしたが、2012 年は第 44 週までに 156 名の発生がありました。岡山県では、「**腸管出血性大腸菌感染症警報**」を県下全域に発令し、ひきつづき注意を呼びかけています。[\(岡山県感染症情報センターHP『腸管出血性大腸菌感染症警報 発令中!』\)](#)
2. **感染性胃腸炎**の定点あたり患者数は、第 42 週以降増加傾向です (第 44 週 定点あたり 5.98 人)。県内の発生状況など、詳しくは「**今週の注目感染症**」をご覧ください。
3. **インフルエンザ**は、倉敷市で 1 名の発生がありました。県内の詳しい発生状況などは、今週から掲載を開始した「**インフルエンザ情報**」をご覧ください。
4. **RSウイルス感染症**の定点あたり患者数は、先週と同数でした (定点あたり 0.91 人)。依然として 2003 年の調査開始以降最も多い状態がつづいています。例年 12 月から翌年 1 月に流行を迎えることから、今後の増加が懸念されます。乳幼児では重症化し、肺炎や細気管支炎を引き起こしたり、合併症として無呼吸や脳炎になることがあります。ひきつづき県内の発生状況に注意するとともに、感染予防に努めて下さい。
5. **風しん**は、全国統計で 10 月 22～28 日の 1 週間に 41 名の届出があり、2012 年の累計報告数は 10 月 31 日までに 1,930 名になりました。昨年 1 年間の累積報告 (371 名) と比較して、5.2 倍になっています。8 月以降減少傾向にありますが、依然として毎週 40 人前後が届出されています。

岡山県では、2012 年はこれまでに 20～40 代の男性 6 名の届出がありました。

([全国風しん発生動向調査国立感染症研究 HP](#)、[岡山県感染症情報センターHP](#))

流行の推移と発生状況

疾病名	推移	発生状況	疾病名	推移	発生状況
インフルエンザ	↑	★	RSウイルス感染症	→	★★★
咽頭結膜熱	↑	★	A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	→	★
感染性胃腸炎	↗	★★★	水痘	↘	★
手足口病	↘	★	伝染性紅斑	↗	★
突発性発疹	→	★★	百日咳	↓	
ヘルパンギーナ	↘	★	流行性耳下腺炎	↗	★
急性出血性結膜炎	→		流行性角結膜炎	→	★
細菌性髄膜炎	↓		無菌性髄膜炎	→	
マイコプラズマ肺炎	↘	★★	クラミジア肺炎	→	

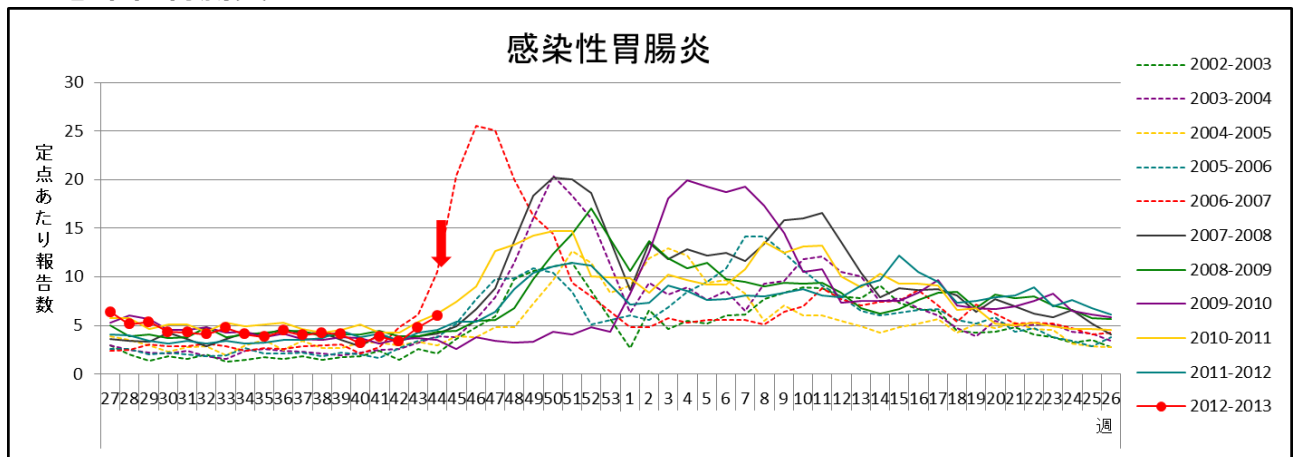
【記号の説明】

前週からの推移：
 : 2倍以上の減少
 : 1.1~2倍未満の減少
 : 1.1未満の増減
 : 1.1~2倍未満の増加
 : 2倍以上の増加

発生状況： 空白：発生なし ★：僅か ★★：少し ★★★：やや多い ★★★★：多い ★★★★★：非常に多い
 ※今週の流行状況を過去5年間と比較し、5段階で表示しています。

今週の注目感染症

1. 感染性胃腸炎

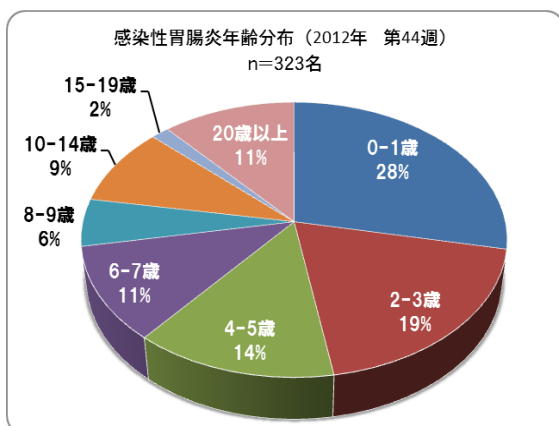


※ 感染性胃腸炎は、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年27週～翌年26週を1シーズンとして、グラフを作成しています。

感染性胃腸炎は、患者数が増加しました（定点あたり4.80→5.98人）。岡山県では、定点あたり患者数が2週連続で1.1倍以上増加したことから、11月8日に『食中毒（ノロウイルス）注意報』を発令し、食中毒予防を呼びかけています（昨シーズン平成23年12月8日発令）。

地域別では、倉敷市（5.64→8.55人）、備前地域（6.40→8.40人）で患者が増加しています。また、患者年齢は1歳以下の乳幼児が28%で最も多く、5歳以下の幼児で61%を占めています。

冬の感染性胃腸炎の原因はウイルスによるものが多く、幅広い年齢層での拡大がみられます。学校や福祉施設、病院などでは感染が拡大することがありますので感染予防と拡大防止に努めてください。



【感染性胃腸炎とは】

感染性胃腸炎は、主にウイルスや細菌を原因とする胃腸炎の総称で、冬に流行する代表的な感染症です。

【ノロウイルス・ロタウイルスによる感染性胃腸炎】

1～2日の潜伏期の後、嘔吐、下痢、腹痛、37℃代の発熱が見られます。ノロウイルスを原因とする場合、症状は1～2日と短期間ですが、ロタウイルスを原因とする場合は5～6日つづくことがあります。

【感染経路】

ウイルスが人の手などを介して、口に入ったときに感染する可能性があります。

1. 感染した人の便や吐物に触れた手指を介してウイルスが口に入った場合
2. 便や吐物が乾燥して、細かな塵と舞い上がり、その塵と一緒にウイルスを吸い込んだ場合
3. 感染した人が十分に手を洗わずに調理した食品を食べた場合

特にノロウイルスは、100個以下の少ない量でも感染が成立する、感染力が強いウイルスです。

【治療】

ウイルスを原因とする感染性胃腸炎への特別な治療法はなく、対症療法が中心です。

通常重症化することはありませんが、小さなお子さんや高齢者の方は、嘔吐や下痢による脱水症状を起こすこともありますので、体調の変化に注意し、早めに医療機関を受診してください。

【予防】

1. **最も大切なことは手を洗うことです。**特に、排便後や、調理・食事の前には、石けんと流水で十分に手を洗いましょう。
2. 嘔吐物や下痢便にはウイルスが大量に含まれています。処理するときは、**処理をする人自身が感染しないように気をつけましょう。**できれば、手袋やマスク、またゴーグルなどを着用し、拭きとった雑巾・タオルはビニール袋に入れて密封し、捨てることをお勧めします。また、処理をした後はしっかりと流水で手を洗いましょう。
3. 嘔吐物や下痢便で汚れた衣類は、85℃で1分間以上、**熱湯消毒するか、塩素系消毒液（0.02%次亜塩素酸ナトリウム）に30～60分間浸した後、他のものと分けて最後に洗濯することをお勧めします。**
4. 嘔吐物は思った以上に遠くまで飛び散ります。ウイルスが残らないように、塩素系消毒剤（次亜塩素酸ナトリウムを含む家庭用漂白剤の場合は約200倍程度に薄めて）で広い範囲を確実に消毒しましょう。**ノロウイルスにアルコールは消毒効果が低いとされています。**
5. 食品は中心部まで十分に加熱しましょう。

[○ノロウイルスに関するQ&Aについて\(厚生労働省\)](#)

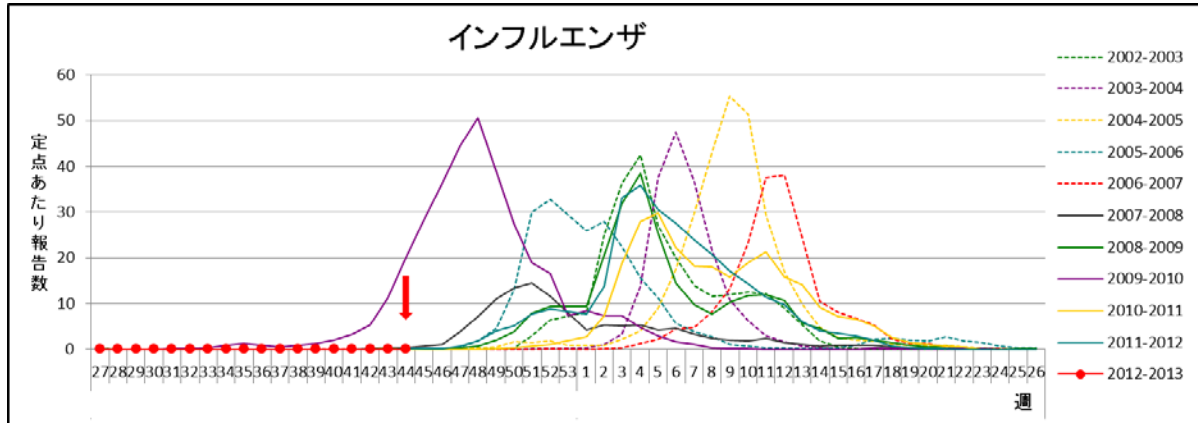
インフルエンザ情報 2012 年第 44 週 (10 月 29 日 ~ 11 月 4 日)

➤ 岡山県の流行状況

- インフルエンザは、倉敷市で 1 名の発生がありました。
- インフルエンザとみられる学校の臨時休業、入院患者報告はありませんでした。

【第 45 週 速報】

- 11 月 6 日、インフルエンザとみられる学級閉鎖が岡山市東区の高등학교でありました。
このうちの患者 1 名からインフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。



※ インフルエンザは、通常、秋から翌年の春にかけて流行するため、今年 27 週 ~ 翌年 26 週を 1 シーズンとして、グラフを作成しています。

インフルエンザは、倉敷市で 30 代の患者 1 名の発生がありました (定点あたり 0.01 人)。県内の発生は、まだ散発的です。

全国集計第 43 週 (10/22~10/28) 速報値によると、全国では定点あたり 0.06 人であり、発生はまだ散発的ですが、沖縄県 (1.88 人) や佐賀県 (1.18 人) など、定点あたり 1.0 人を越えている地域もあります。また、全国ではインフルエンザウイルス AH3 型が 59 件、AH1pdm09 型が 8 件、B 型が 2 件検出されており、昨シーズンの同時期同様 AH3 型が最も多く検出されています。

11 月 6 日、県内で今シーズン初めてとなるインフルエンザとみられる集団発生があり、1 クラス 44 人のうち 12 人の欠席が報告されています (昨シーズン平成 23 年 10 月 31 日発生)。このうちの患者 1 名から、インフルエンザウイルス AH3 型が検出されました。

インフルエンザの本格的な流行は、通常 12 月に入ってからといわれますが、集団事例も発生しています。手洗い・うがいを励行し、感染予防を心がけましょう。

インフルエンザがうつらないようにするには

1. 飛沫感染、接触感染といった感染経路を断つことが大切です。

- ・外から帰ってきたときには手洗いを心がけましょう。
- ・アルコールを含んだ消毒液で手を消毒するのも効果的です。
- ・流行期には人混みを避け、人混みに入るときはマスクを着用するなどして感染を防ぎましょう。
- ・普段からの健康管理も重要です。栄養と睡眠を十分にとり、抵抗力を高めておくこともインフルエンザの発症を防ぐ効果があります。

2. 予防接種も重要です。

- ・予防接種は発症の可能性を減らし、もし発症しても重い症状になるのを防ぎます。
- ・流行するウイルスの型も変わるので、毎年、定期的に接種することが望まれます。

インフルエンザにかかったとき、特に気をつけることは

「他の人にうつさない」ことが大切です。

- ・せきが出るときはマスクを付け、せきエチケット※を行いましょう。
- ・同居する他の家族、特に重症になりやすいお年寄りなどにはなるべく接触しないよう心がけましょう。
- ・家族が患者さんと接するときには念のためマスクを着用し、お世話の後は、こまめに手を洗いましょう。

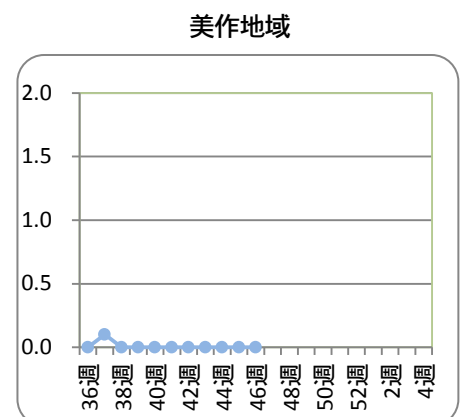
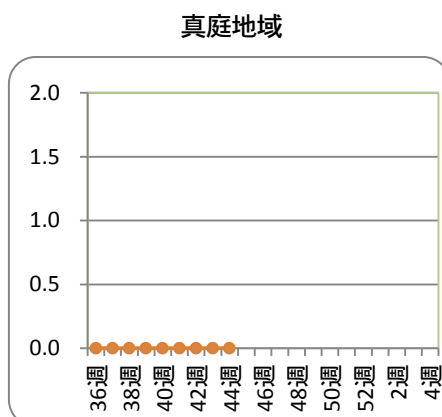
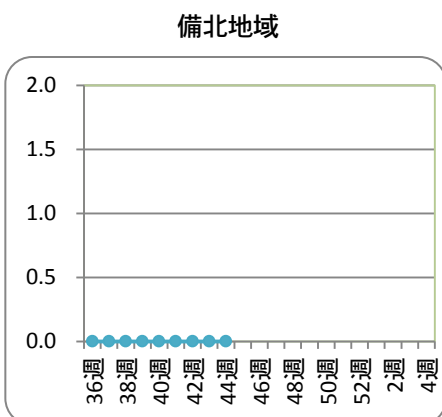
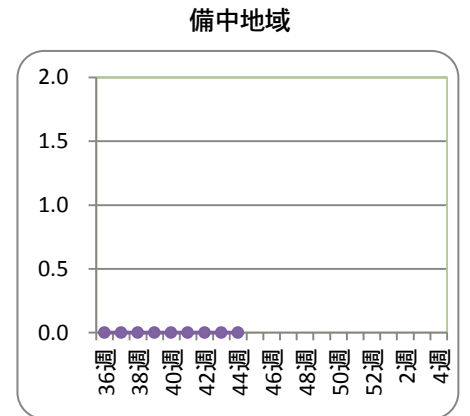
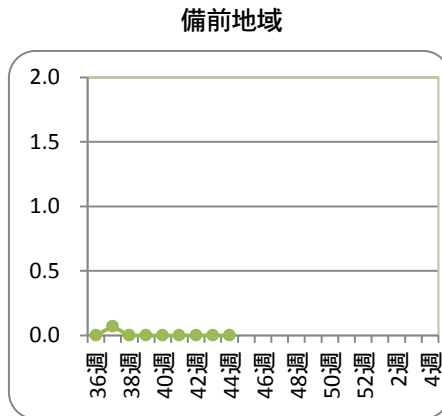
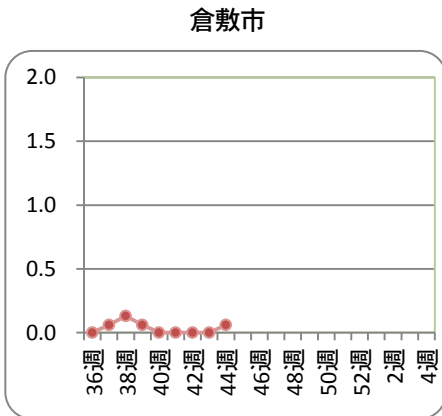
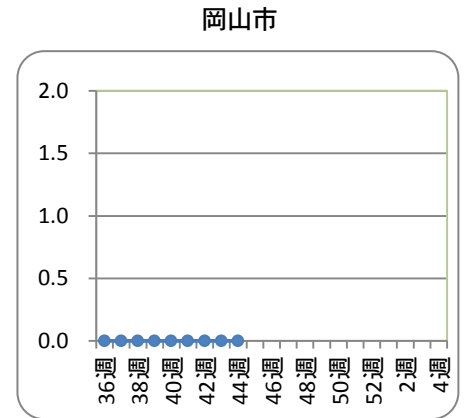
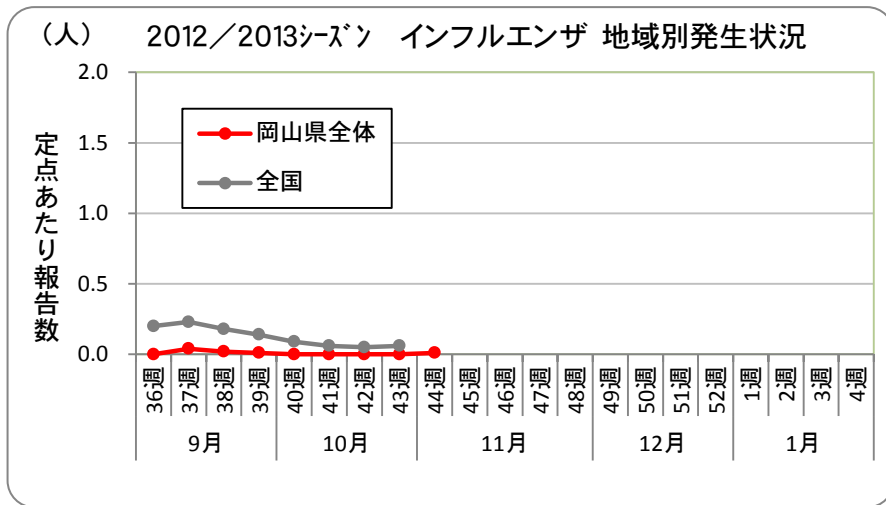
※せきエチケット：人に向かって咳やくしゃみをしないこと。とっさにせきやくしゃみが出そうなときは、周囲の人から顔をそらし、そで口で口をおおう、また用意があればティッシュなどで口・鼻をおおいます。せきやくしゃみがつづく時はマスクを着用してください。鼻水・痰などを含んだティッシュはすぐにナイロン袋に入れて密封したり、ふた付きのゴミ箱に捨て、直ちに手を洗いましょう。

1. 地域別発生状況

第44週 (10/29~11/4) 前週からの推移 (単位: 人)

地域名	発生状況		推移	地域名	発生状況		推移
岡山県全体	患者数	1	▲	備 中	患者数	—	
	定点あたり	0.01			患者数	—	
岡山市	患者数	—		備 北	患者数	—	
	定点あたり	—			患者数	—	
倉敷市	患者数	1	▲	真 庭	患者数	—	
	定点あたり	0.06			患者数	—	
備 前	患者数	—		美 作	患者数	—	
	定点あたり	—			患者数	—	

【記号の説明】 前週からの推移: 2倍以上の減少 ↓ 1.1~2倍未満の減少 ▼ 1.1未満の増減 →
 1.1~2倍未満の増加 ▲ 2倍以上の増加 ↑



保健所別報告患者数 2012年 44週 (2012/10/29～2012/11/04)

2012年11月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
RSウイルス感染症	49	0.91	33	2.36	8	0.73	1	0.10	-	-	2	0.50	1	0.50	4	0.67
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2.50	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	0.52	9	0.64	10	0.91	-	-	4	0.57	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	323	5.98	76	5.43	94	8.55	84	8.40	17	2.43	15	3.75	11	5.50	26	4.33
水痘	27	0.50	9	0.64	10	0.91	3	0.30	-	-	-	-	1	0.50	4	0.67
手足口病	7	0.13	5	0.36	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	25	0.46	14	1.00	6	0.55	3	0.30	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	0.13	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	19	0.35	3	0.21	3	0.27	8	0.80	2	0.29	1	0.25	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	-	-	3	0.75	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	1.20	3	3.00	1	1.00	-	-	-	-	2	2.00	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

(- : 0 or 0.00) (空白 : 定点なし)

保健所別報告患者数 2012年 44週 (2012/10/29～2012/11/04)

2012年11月7日

疾病名	全県		岡山市		倉敷市		備前		備中		備北		真庭		美作	
	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当	報告数	定点当
インフルエンザ	1	0.01	-	-	1	0.06	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
咽頭結膜熱	8	0.15	3	0.21	-	-	-	-	-	-	-	-	5	2.50	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	0.52	9	0.64	10	0.91	-	-	4	0.57	-	-	-	-	5	0.83
感染性胃腸炎	323	5.98	76	5.43	94	8.55	84	8.40	17	2.43	15	3.75	11	5.50	26	4.33
水痘	27	0.50	9	0.64	10	0.91	3	0.30	-	-	-	-	1	0.50	4	0.67
手足口病	7	0.13	5	0.36	-	-	-	-	1	0.14	-	-	-	-	1	0.17
伝染性紅斑	3	0.06	2	0.14	1	0.09	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	0.13	2	0.14	2	0.18	-	-	-	-	2	0.50	-	-	1	0.17
流行性耳下腺炎	19	0.35	3	0.21	3	0.27	8	0.80	2	0.29	1	0.25	-	-	2	0.33
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	0.33	-	-	3	0.75	-	-	1	1.00	-	-	-	-	-	-

濃黄セルに赤字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル3
薄黄セルに黒数字は岡山県地区別感染症マップにおいて、レベル2

を示しています。

感染症発生動向調査 週情報 報告患者数 年齢別 (2012年 第44週 2012/10/29～2012/11/04)

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70-79	80～	
インフルエンザ	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20～
RSウイルス感染症	49	9	14	14	4	3	2	2	-	-	-	-	-	-	1
咽頭結膜熱	8	-	4	3	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎	28	-	-	1	1	4	2	1	7	3	1	3	5	-	-
感染性胃腸炎	323	7	29	55	32	30	26	18	20	16	6	12	30	5	37
水痘	27	-	-	4	5	7	5	3	1	2	-	-	-	-	-
手足口病	7	-	1	1	3	1	1	-	-	-	-	-	-	-	-
伝染性紅斑	3	-	-	2	-	1	-	-	-	-	-	-	-	-	-
突発性発疹	25	2	12	7	1	2	-	-	-	-	-	1	-	-	-
百日咳	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
ヘルパンギーナ	7	1	2	-	-	-	-	1	1	1	1	-	-	-	-
流行性耳下腺炎	19	-	-	1	-	-	2	3	3	1	3	2	4	-	-

疾病名	合計	-6ヶ月	-12ヶ月	1歳	2歳	3歳	4歳	5歳	6歳	7歳	8歳	9歳	10-14	15-19	20-29	30-39	40-49	50-59	60-69	70～	
急性出血性結膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
流行性角結膜炎	4	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	1	-	-	-	-	3

疾病名	合計	0歳	1-4	5-9	10-14	15-19	20-24	25-29	30-34	35-39	40-44	45-49	50-54	55-59	60-64	65-69	70～
細菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
無菌性髄膜炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
マイコプラズマ肺炎	6	1	1	1	3	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
クラミジア肺炎	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

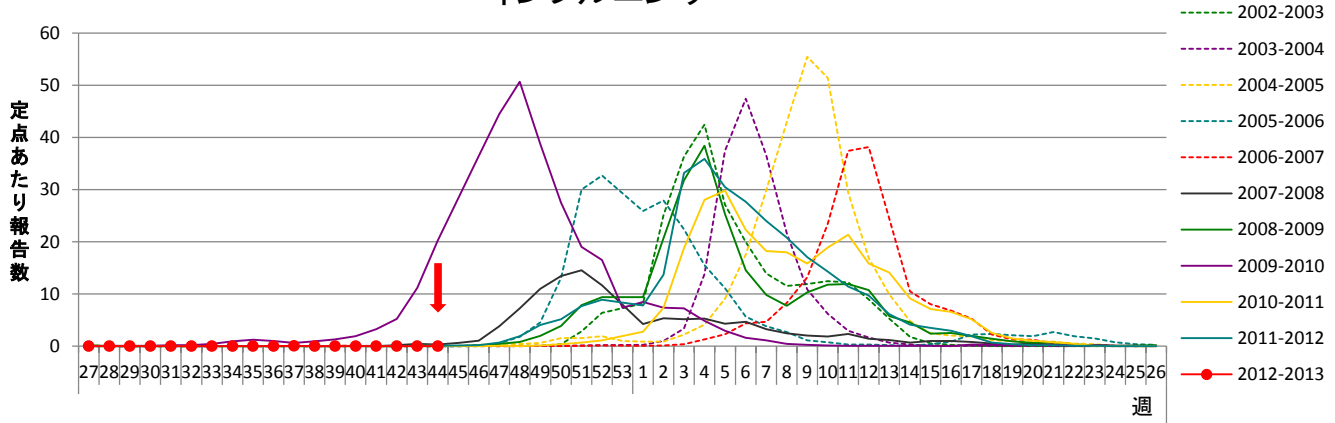
(- : 0)

全数把握 感染症患者発生状況

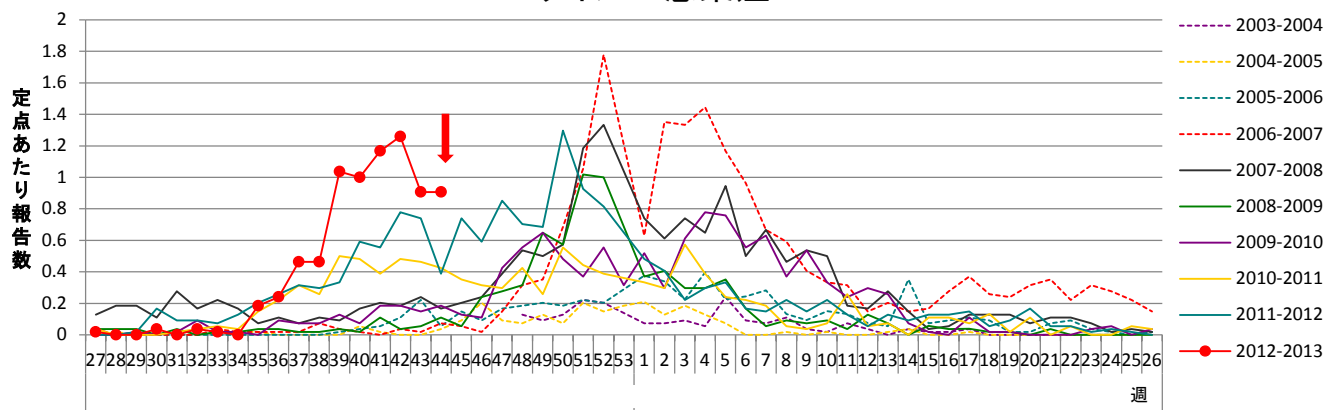
2012年 44週

分類	疾病名	2012			疾病名	2012			疾病名	2012		
		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年		今週	累計	昨年
一類	エボラ出血熱	-	-	-	クリミア・コンゴ出血熱	-	-	-	痘そう	-	-	-
	南米出血熱	-	-	-	ペスト	-	-	-	マールブルグ病	-	-	-
	ラッサ熱	-	-	-		-	-	-		-	-	-
二類	急性灰白髄炎	-	-	-	結核	-	379	557	ジフテリア	-	-	-
	重症急性呼吸器症候群	-	-	-	鳥インフルエンザ(H5N1)	-	-	-		-	-	-
三類	コレラ	-	-	-	細菌性赤痢	-	-	1	腸管出血性大腸菌感染症	-	156	67
	腸チフス	-	1	-	パラチフス	-	-	-		-	-	-
四類	E型肝炎	-	-	1	ウエストナイル熱	-	-	-	A型肝炎	-	2	3
	エキノкокクス症	-	-	-	黄熱	-	-	-	オウム病	-	-	-
	オムスク出血熱	-	-	-	回帰熱	-	-	-	キャサヌル森林病	-	-	-
	Q熱	-	-	-	狂犬病	-	-	-	コクシジオイデス症	-	-	-
	サル痘	-	-	-	腎症候性出血熱	-	-	-	西部ウマ脳炎	-	-	-
	ダニ媒介脳炎	-	-	-	炭疽	-	-	-	チクングニア熱	-	-	-
	つつが虫病	-	2	3	デング熱	-	1	-	東部ウマ脳炎	-	-	-
	鳥インフルエンザ	-	-	-	ニパウイルス感染症	-	-	-	日本脳炎	-	-	-
	日本紅斑熱	-	-	3	ハンタウイルス肺症候群	-	-	-	Bウイルス病	-	-	-
	鼻疽	-	-	-	ブルセラ症	-	-	-	ベネズエラウマ脳炎	-	-	-
	ヘンドラウイルス感染症	-	-	-	発しんチフス	-	-	-	ボツリヌス症	-	-	1
	マラリア	-	-	-	野兎病	-	-	-	ライム病	-	-	-
	リッサウイルス感染症	-	-	-	リフトバレー熱	-	-	-	類鼻疽	-	-	-
	レジオネラ症	-	21	37	レプトスピラ症	-	-	-	ロッキー山紅斑熱	-	-	-
五類	アメーバ赤痢	-	11	11	ウイルス性肝炎*3	-	7	9	急性脳炎*4	-	1	3
	クリプトスポリジウム症	-	-	-	クロイツフェルト・ヤコブ病	-	1	2	劇症型溶血性レンサ球菌感染症	-	-	1
	後天性免疫不全症候群	-	15	15	ジアルジア症	-	2	2	髄膜炎菌性髄膜炎	-	-	-
	先天性風しん症候群	-	-	-	梅毒	-	7	9	破傷風	-	1	3
	バンコマイシン耐性黄色ブドウ球菌感染症	-	-	-	バンコマイシン耐性腸球菌感染症	-	2	-	風しん	-	6	1
	麻しん	-	6	4		-	-	-		-	-	-

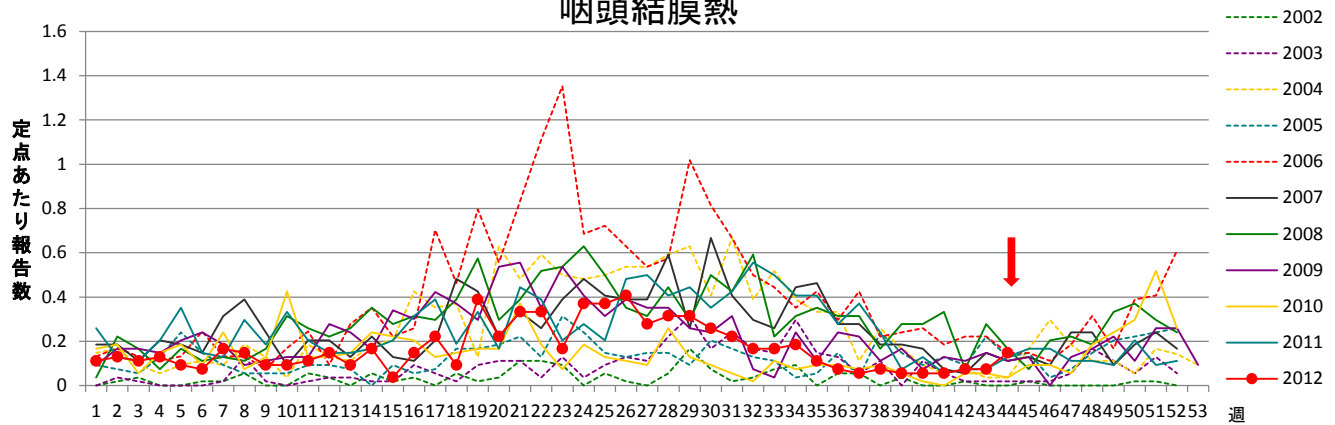
インフルエンザ



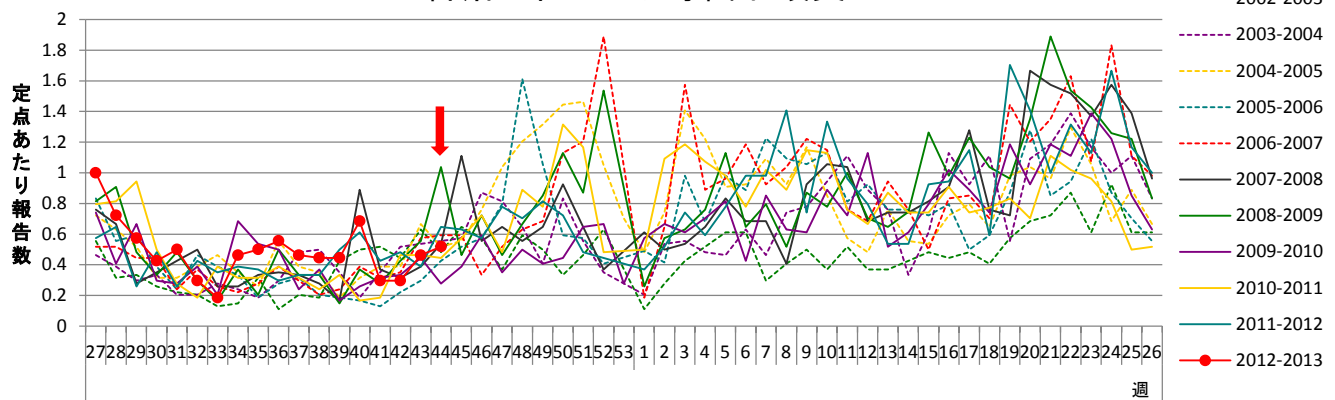
RSウイルス感染症



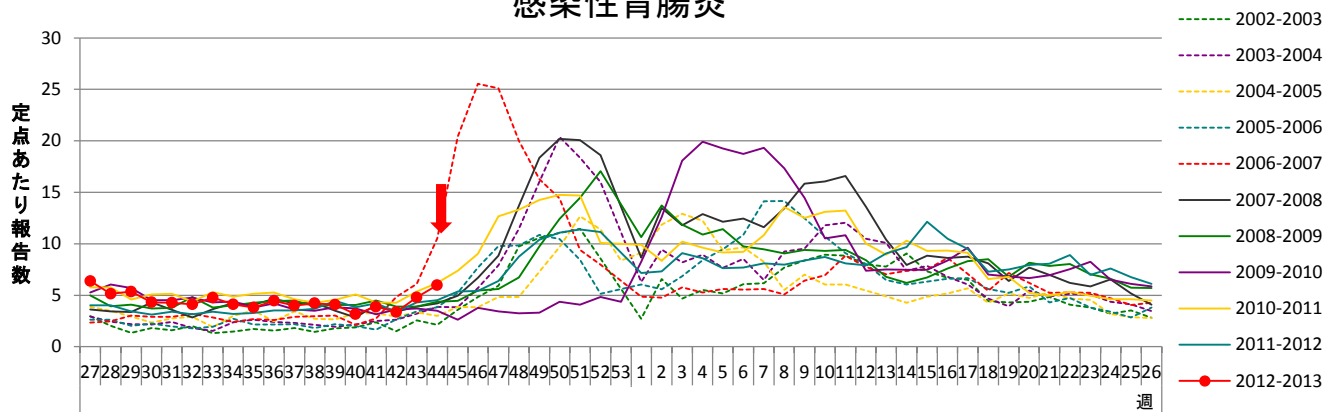
咽頭結膜熱



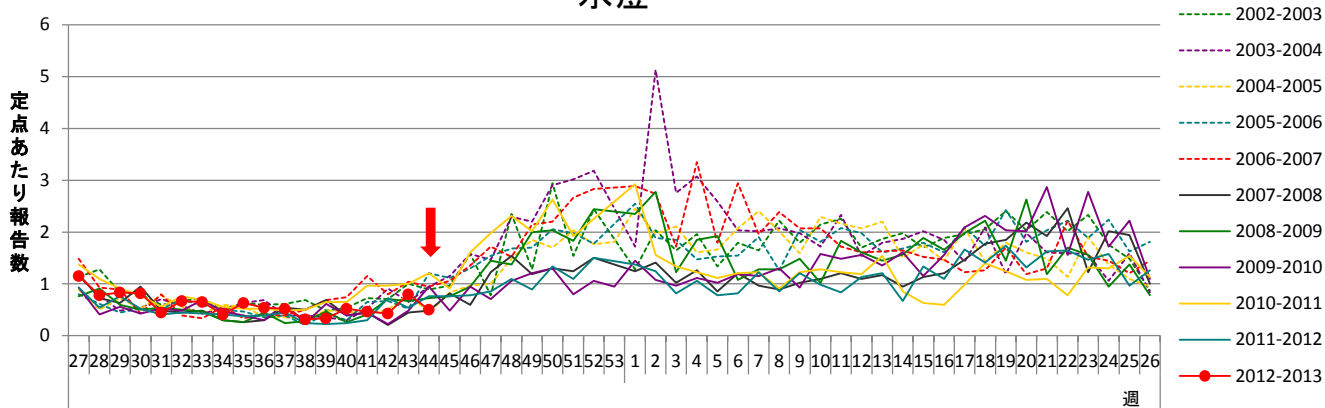
A群溶血性レンサ球菌咽頭炎



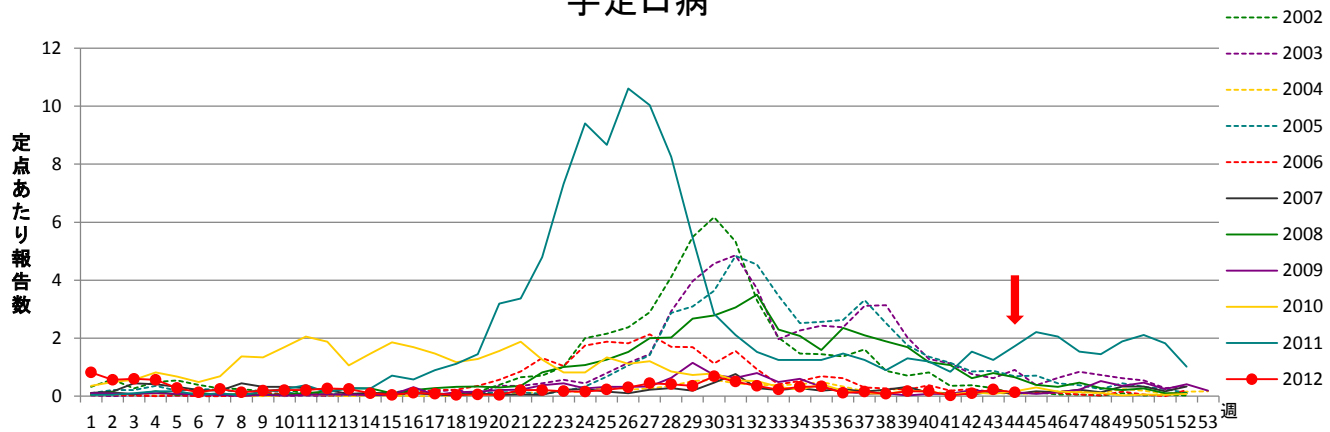
感染性胃腸炎



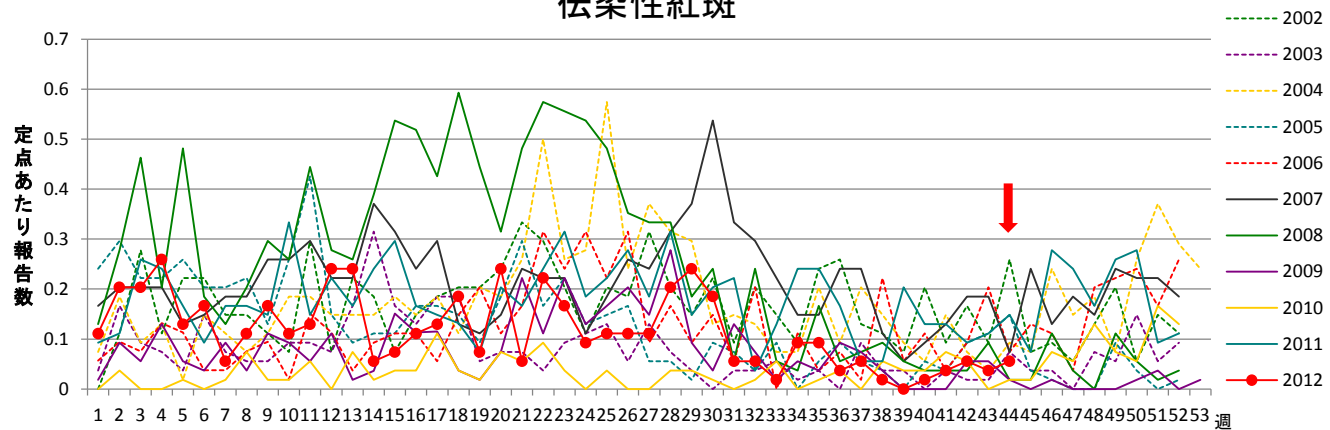
水痘



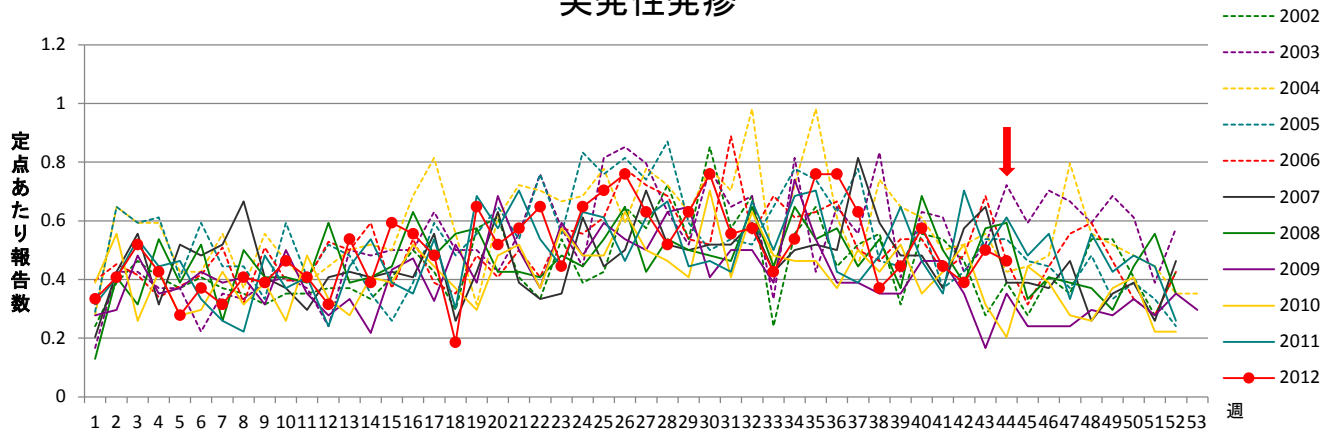
手足口病



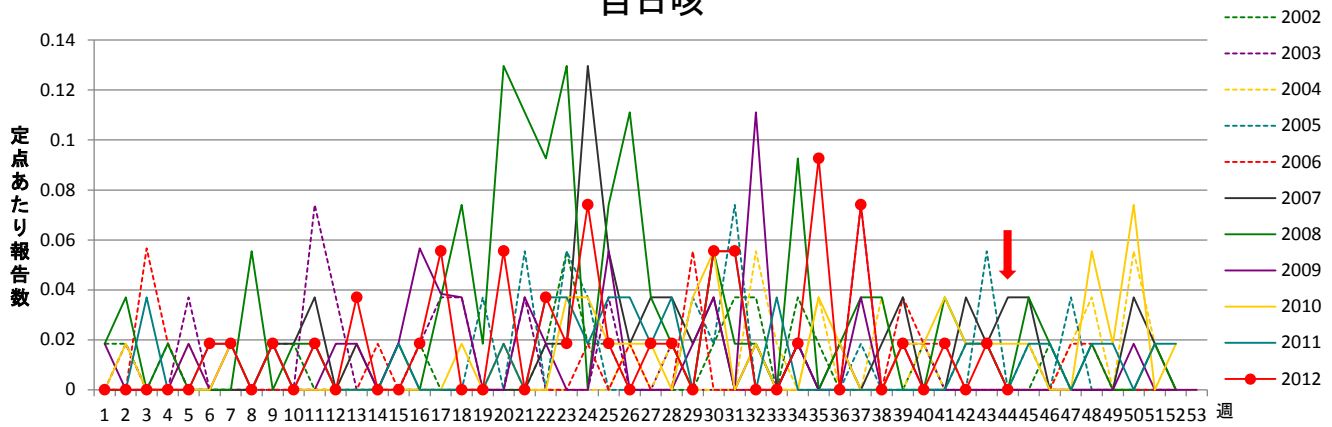
伝染性紅斑



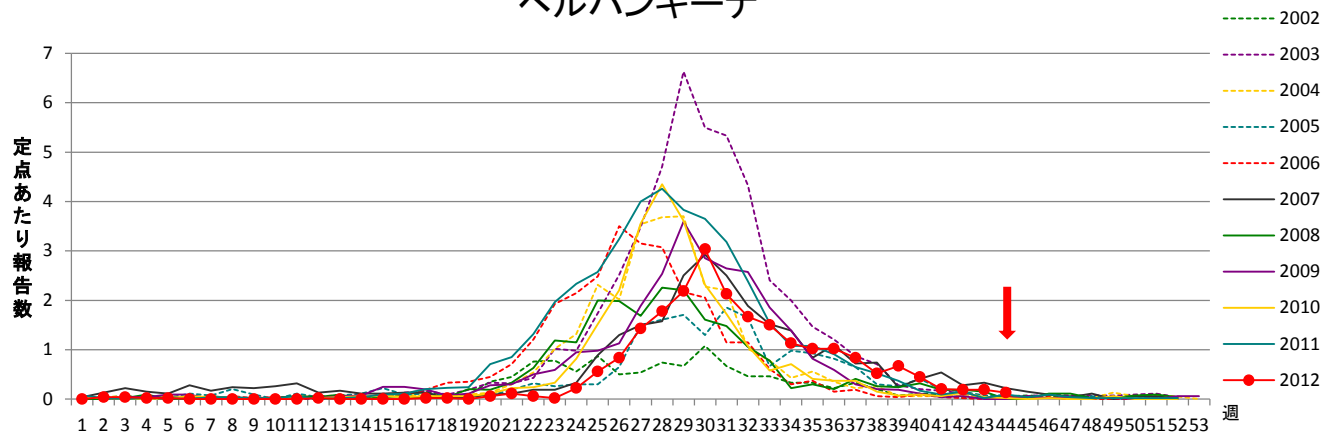
突発性発疹



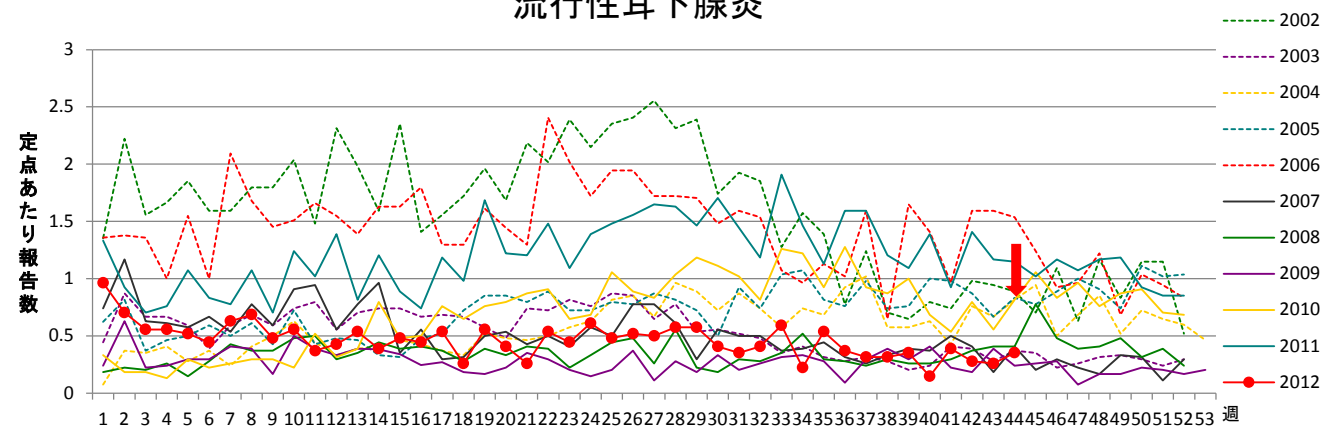
百日咳



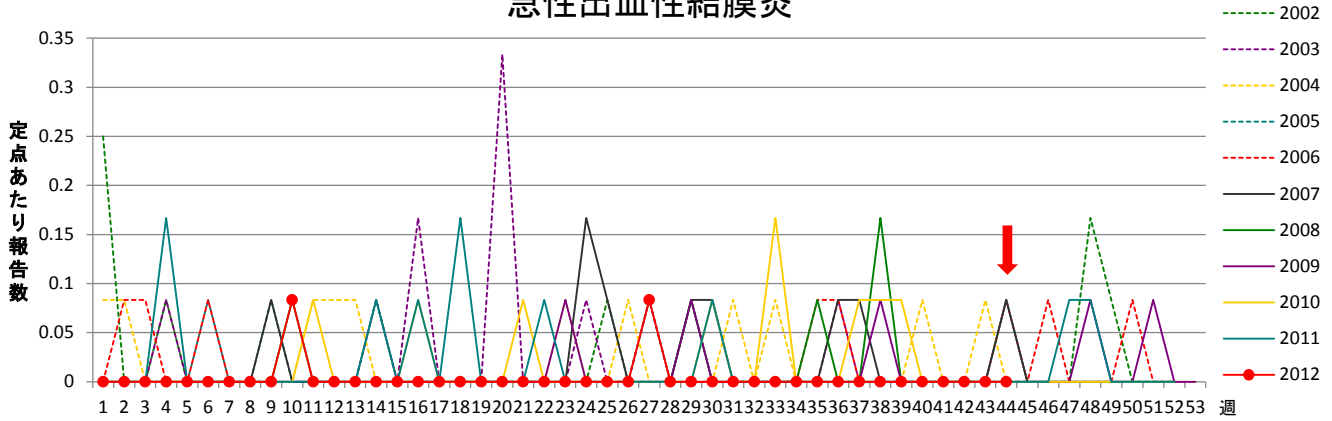
ヘルパンギーナ



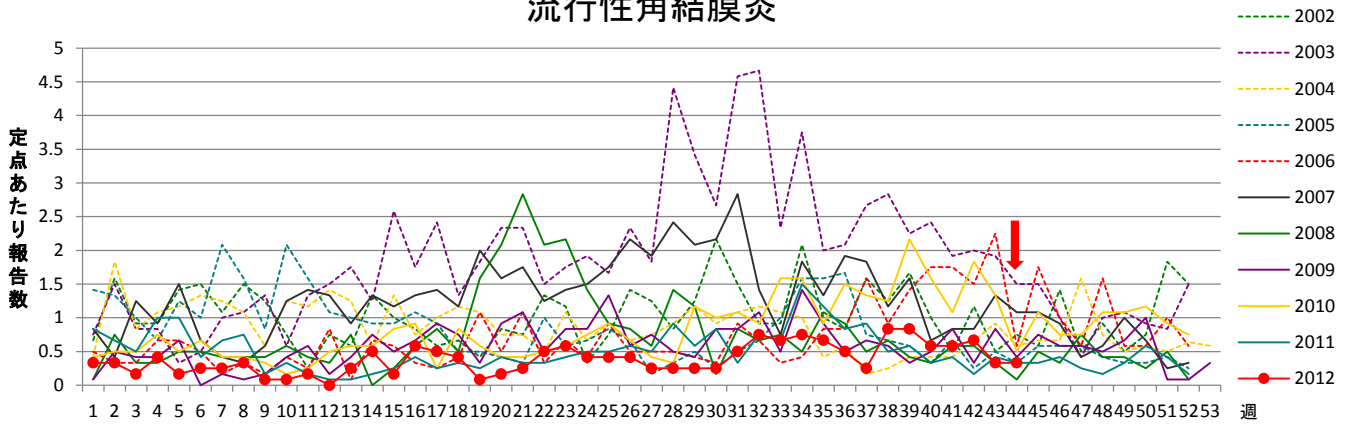
流行性耳下腺炎



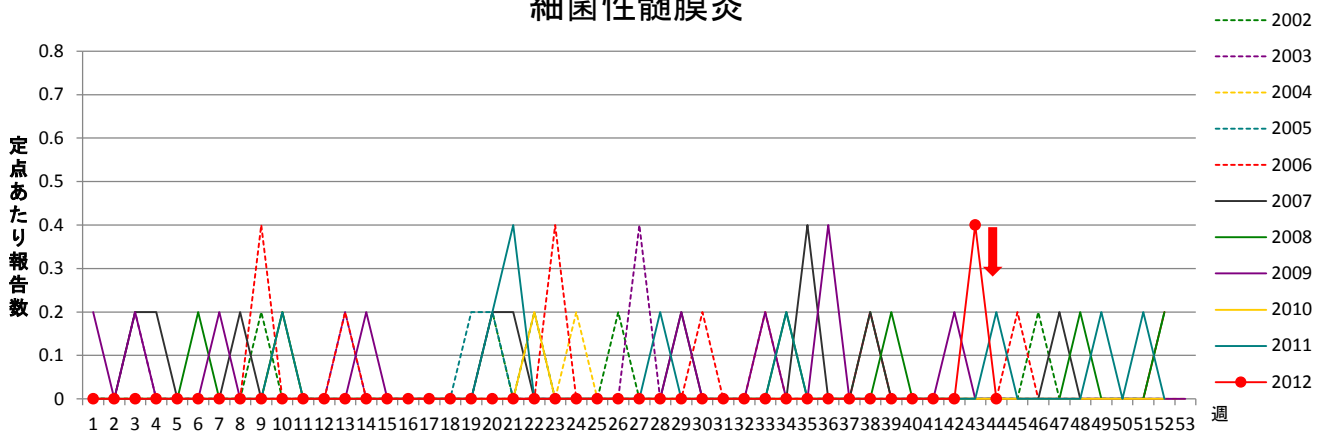
急性出血性結膜炎



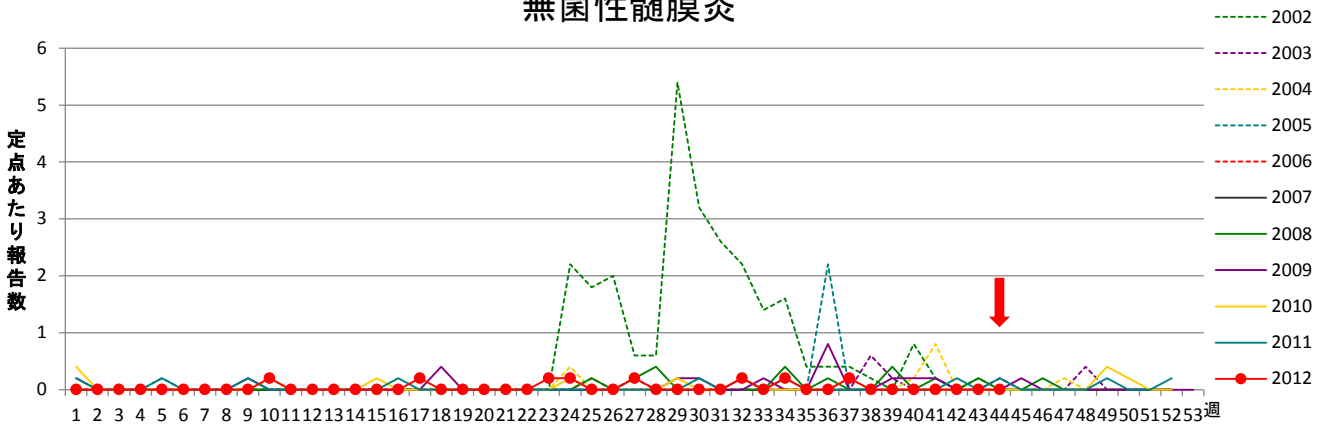
流行性角結膜炎



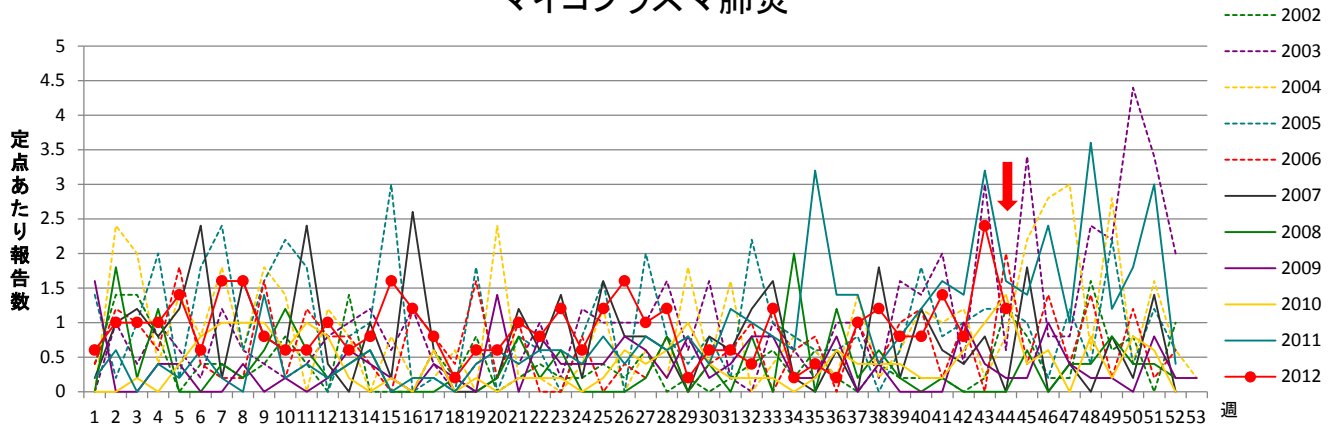
細菌性髄膜炎



無菌性髄膜炎



マイコプラズマ肺炎



クラミジア肺炎

